7．景観デザイン指針（色彩編）

《目　次》

（1）景観デザイン指針（色彩編）について ・・・・・・・・・・・ １１２

（2）色彩の知識・・・マンセル表色系　他 ・・・・・・・・・・・ １１３

（3）岡山市の色彩の特色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１５

（4）岡山市内で多く使われている建築物の色彩 ・・・・・・・・ １１５
（実態調査から導かれる色彩）

（5）色彩計画の基本原則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１７

（6）色彩計画のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１８

（7）岡山市景観計画で決められた色彩ルール ・・・・・・・・・ １１９

（8）色彩基準の範囲内にある代表的な色彩 ・・・・・・・・・・ １２０

（9）岡山カラーガイド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２１
１）カラートーンによる色の分類
２）大規模建築物等の色彩
３）景観形成重点地区の色彩

（10）公共施設の色彩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２６

（11）参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２８

（１）景観デザイン指針（色彩編）について

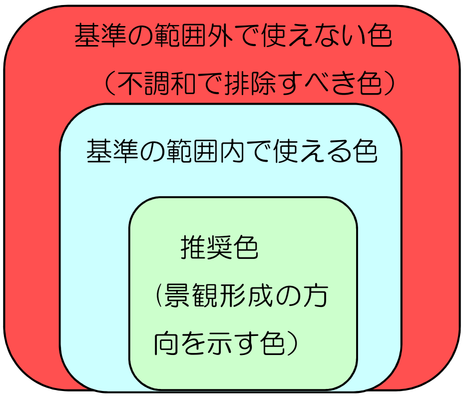
景観デザイン指針（色彩編）では、まず色彩に関して基本的な考え方を示すとともに、岡山の色彩の特徴を明らかにします。

次に、岡山市景観計画で定められた景観形成基準の色彩について、各地域の特性を踏まえた望ましい色彩や避けるべき色彩などを具体的に紹介します。景観計画では、景観を阻害する色彩を取り除き景観形成の底辺を広げることを第一目的としていますが、さらに、この指針では推奨する色彩を紹介することで景観形成の方向性を明確にします。

合わせて、公共施設の色彩を決める上での若干の注意点を説明します。

この指針を活用することにより、地域特性を踏まえた色彩の考え方や基準を理解し、色彩計画を進めていくことに役立ててください。

※ この冊子における色彩表現は、印刷によるため実際のマンセル値とは異なる場合がありますので、ご了承ください。



COLUMN

●公共空間のデザインについて思うこと

あなたは見たくない景観があるときはどのような行動をとりますか。

見たくない景観がある所には、足を運ばない。テレビであれば、スイッチを切る。「見るか見ないかの選択権」はあなたにあります。

しかし、公共空間にはあなたにも市民にも、「見るか見ないかの選択権」はありません。行政サービスを受けるため公共施設を訪れると、たとえ見たくないものがあっても否応なく見させれてしまいます。道路空間においても、目的地へ行くまでに見たくないものがあってもそこを避けて通ることはできません。

だからこそ、公共空間のデザインは慎重でなければなりません。誰が見ても違和感のない、誰からも支持されるデザインとする必要があります。

右の写真の広告付きバス停上屋は、広告収入でもって建設費と管理費を回収するという岡山発のビジネスモデルです。ここに掲出する広告物は、以上の考えを踏まえ、デザインや表現が洗練されたものに限って掲出できることとしています。今では、都心内に広く設置され、街に華やかさを与える装置となっています。

（2）色彩の知識・・・マンセル表色系　他

色彩は、赤や青など色名で表現されることが一般的ですが、個人の感覚によって、同じ赤や青でも思い浮かべる色彩は様々です。そのため、色彩を正確に表現する尺度として「マンセル表色系」が広く使われ、これにより全ての色彩を色相（いろあい）、明度（あかるさ）、彩度（あざやかさ）の「色の三属性」を用いて数値で正確に表すことができます。

なお、日本塗料工業会の塗料用標準色にも、このマンセル値が付記されており、色票番号もマンセル値と対応しています。

○色相（Hue）

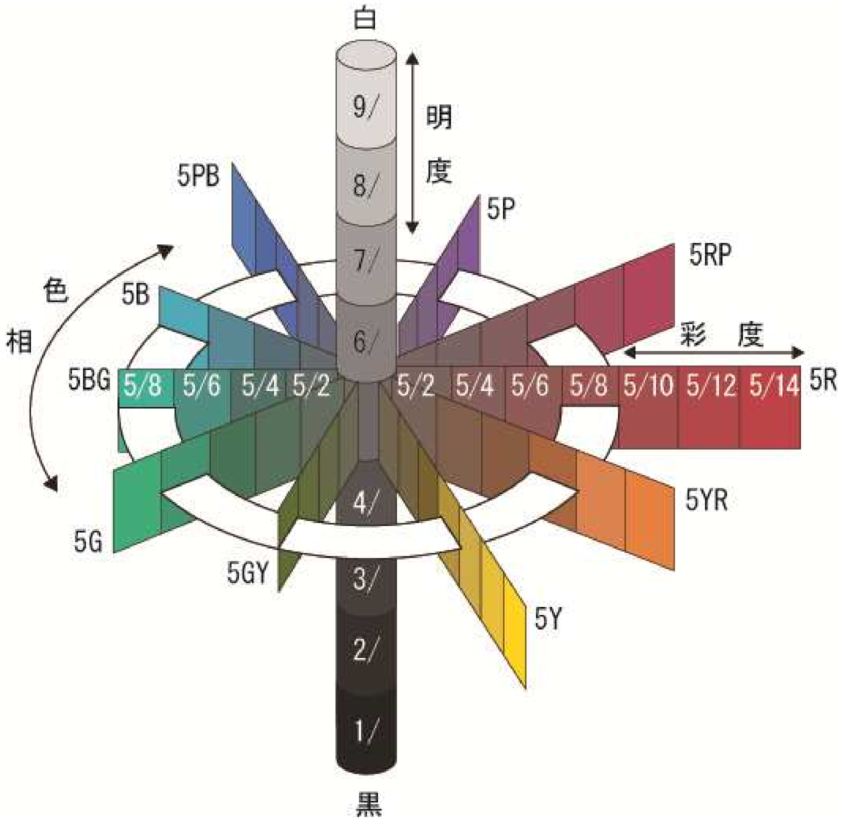
色合いを示す属性です。赤（R）、黄（Y）、緑（G）青（B）、紫（P）の５色相を基本とし、さらに中間に黄赤（YR）、黄緑（GY）、青緑（BG）、青紫（PB）、赤紫（RP）を配して１０色相としている。この１０色相とその度合い（０から１０までの数値）を組み合わせて表記します。また、白、黒、グレーは基本色相を持たず、N（ニュートラル）で表記します。

○明度（Value）

明るさを示す属性です。０～１０までの数値を使い、暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなります。最も暗い黒を明度０、最も明るい白を明度１０とし、灰色は１～９の数字で表されます。

○彩度（Chroma）

鮮やかさを示す属性です。目立たない色ほど数値が小さく、鮮やかな色ほど数値が大きくなります。彩度は色のない無彩色（白、黒、グレー）を０として色の鮮やかさの度合いにより数字が大きくなり、赤の原色は彩度１６程度です。



マンセル記号による
色彩の表し方と読み方

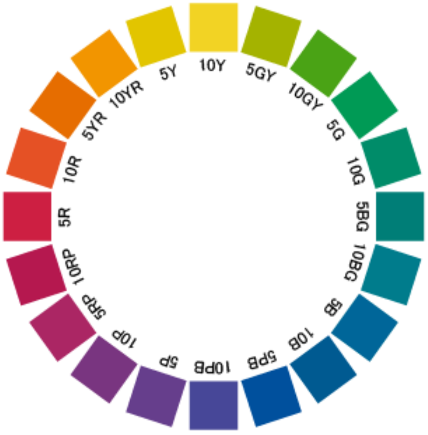
以下に色彩に関して必要な知識について、補足説明します。

○色相環と補色について

色相の総体を順序立てて円環にして並べたものを「色相環」といいます。

色相環で正反対に位置する色の組み合わせを「補色」といいます。補色同士の色の組み合わせは、互いの色を引き立て合う相乗効果があり、「補色調和」といいます。しかし、明度が同じ補色同士を組み合わせた場合には、ハレーションを引き起こし、目がチカチカすることがあります。

セブンイレブンの看板は、赤と緑を用い、補色調和を狙ったものです。



マンセル表色系の色相環

○暖色と寒色

「暖色」は、視覚から暖かい印象を与える色をいい、赤、黄、橙などがあります。暖色は人の感情を高揚させ、脈拍や呼吸、血圧が高まり、自律神経を刺激すると言われています。

「寒色」は、視覚から寒い印象を与える色をいい、青もしくは青に近い色などがあります。寒色は、興奮を鎮めたり食欲を減退させる効果があると言われています。

○無彩色

「無彩色」とは、白と黒との混合で得られる色の総称をいい彩度が０であることを表しています。白、黒、様々な濃度の灰色が含まれます。無彩色でない色は、彩度を有する「有彩色」です。

○トーン

色の三属性のうち、明度と彩度を組み合わせたものを「トーン」といいます。明るさや鮮やかさが似ている色彩は、色相が異なっても強弱や濃淡などの印象がほぼ共通して見えます。トーンを揃えると、いろいろな色相があっても調和感が生まれます。

○アースカラー

「アースカラー」とは、大地や木の幹の色、空や海の水の色、新緑から紅葉へと季節により変化する木の葉の色など自然の織りなす美しい色をいいます。

○騒色

「騒色」とは、周辺と不調和に映る色彩で、見る人に不快感を与える色づかいをいいます。幹線道路や都心部では、派手で大型の看板が目につき、雑然とした景観となっています。これなどはまさに騒がしい色彩（騒色）と言えます。

（３）岡山市の色彩の特色

○水や緑が際立つ色彩

市北部になだらかに広がる吉備高原や市南部の広大な干拓農地、都心を囲むように位置する山々や丘陵地、またその山間を流れる河川と縦横に流れる幾筋もの用水路、岡山市にはこれら水や緑の自然豊かな色彩景観が広がっています。その内、大部分を占める大地の色彩はＹＲ系やＹ系の低彩度色です。

○地域の歴史、文化を継承する色彩

城下町や門前町、宿場町などとして栄え、現在に残る歴史的街並みなど、地域で育まれ受け継がれてきた生活文化に根付く色彩景観を見ることができます。ＹＲ系やＹ系の低彩度の狭い範囲にあります。

○風格と活力のある都市の色彩

都市として洗練された落ち着きや風格が漂い、また賑わいや活力に溢れた色彩景観が人々の目を楽しませてくれます。建物では、ＹＲ系かＹ系の低彩度な色彩が主流であり、現代の都市の基調色は、自然界や歴史的な建築物の基調色とほぼ同じです。

（４）岡山市内で多く使われている建築物の色彩

色彩実態調査の結果、多くの建築物は暖かく落ち着いた印象がある暖色系の中・低彩度で明るい色彩を基調色としています。

【特色】

○暖色系が全体の半分以上、無彩色を加えると全体の９割以上

○１０YR を中心に５YR から５Ｙ程度の狭い色相と無彩色が基調色

○彩度は暖色系で６以下、寒色系で２以下に大部分の色彩が集中（９７％）

○明度は３以上の範囲に大部分の色彩が集中（９９％）

色彩実態調査

建築物の色彩計画を行う場合には、その背景となる街並みがどのような色彩を持っているかを知ることが重要です。

このため、市街地中心部及び郊外の主要幹線道路において調査区間を設定し、道路に面するすべての建築物について色彩実態調査を行いました。

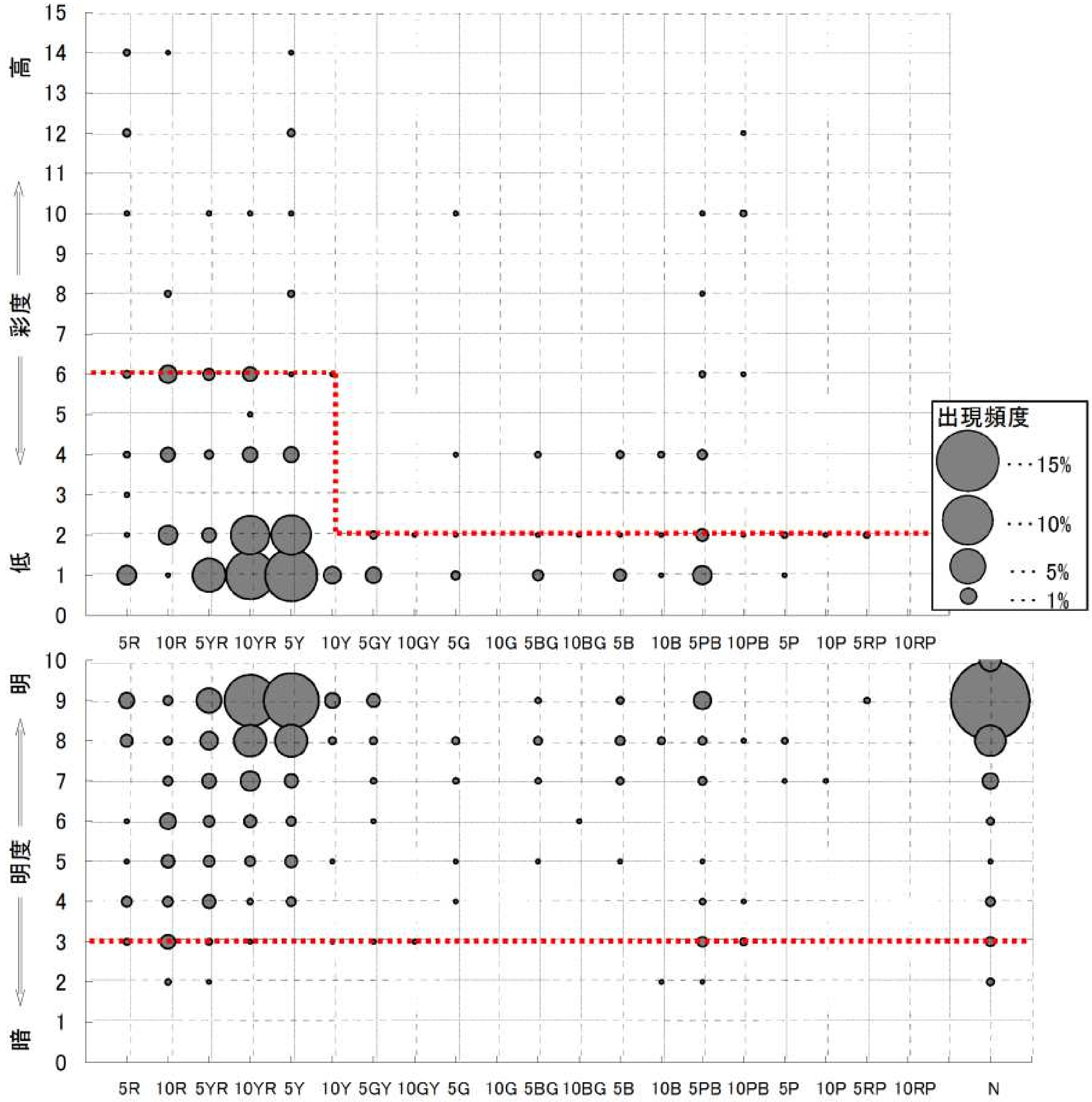
（調査総数１，３５５件）

平成 19 年実施

色相別の割合

色相	割合	計	区分	
5R	2.5%	7.0%	暖色系 55.7%	有彩色 63.2%
10R	4.5%			
5YR	7.1%	26.7%		
10YR	19.6%			
5Y	20.6%	22.0%		
10Y	1.4%		寒色系 7.5%	
5GY	1.3%	1.4%		
10GY	0.1%			
5G	0.5%	0.5%		
10G	0.0%			
5BG	0.7%	0.8%		
10BG	0.1%			
5B	0.9%	1.2%		
10B	0.3%			
5PB	2.7%	3.1%		
10PB	0.4%			
5P	0.2%	0.3%		
10P	0.1%			
5RP	0.2%	0.2%		
10RP	0.0%			
N	36.8%	36.8%		無彩色 36.8%

建築物の外壁基調色の色彩分布図



○岡山市内で主に使われている建築物の色彩の範囲が明らかになりました。

これは、岡山という都市に建築活動の積み重ねにより無意識のうちに蓄積された色彩です。

- １０YR を中心に５YR から５Ｙ程度の狭い色相と無彩色が基調色
- 彩度は２以下
- 明度は８～９

○岡山市景観計画では、以上の色彩実態調査から明らかになった色彩分布を踏まえ、周辺環境と調和した景観形成を推進するため、けばけばしく突出した色彩を排除することを目的に、景観形成基準の内、色彩の規制値を定めています。景観形成基準については、（７）で詳しく説明します。

（5）色彩計画の基本原則

○自然と調和する色彩

原色に近く彩度の高い色彩は避け、空や大地、樹木などの自然の色と調和しやすい、暖色系で低彩度の色彩を基本とし、自然界の中で違和感なく調和する色彩を選びましょう。

○地域特性を踏まえた色彩

水や緑、農業景観、あるいは歴史、文化などを活かした景観形成を図る地域では、その地域の景観特性をよく踏まえた色彩を選びましょう。地域に蓄積された色彩を把握し、それを活かして使いましょう。

○周囲の建築物等と調和する色彩

市内で多く使われている色彩は暖色系、無彩色系を基調としたものが多く、周囲の建築物等と調和したまとまりある景観を創出していくために、低彩度な色彩を基調として色彩計画を行いましょう。

○素材感を大切にした色彩

木材や石材などの自然素材を使用する場合は、できるだけ着色はせずに素材本来の色彩を活かしましょう。退色して馴染んでいくことは自然材の長所であり、その汚れも傷みも取り込んで風格となります。

○規模や形態に応じた色彩

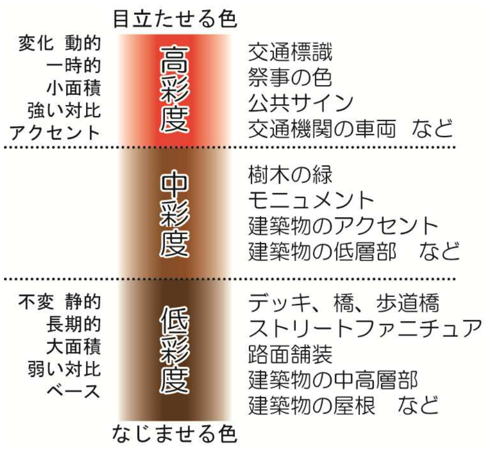
同じ建築物でも壁面の面積の大きさや、形態・部位に応じて色彩を使い分けることにより、威圧感や単調さを軽減するとともに変化のある外観を創りだすことができます。

また、比較的小さな部位をアクセントカラーで強調することによって、全体を引き締める効果が生まれることもあります。

（６）色彩計画のポイント

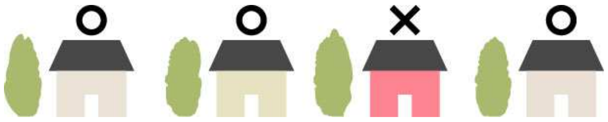
○景観要素の色彩を整理する

周辺環境の色彩を把握し、色彩の秩序付けを考えます。景観を構成する様々な要素を目立たせる必要のあるものと、そうでないものに分け、目立たせるべきものは、彩度の高い色彩、なじませるべきものは彩度の低い色彩を使うことが原則です。



○騒色を取り除く

場所性を無視した高彩度の色彩は、周辺と調和せず騒色となります。



○基調色の感じられる街並みをつくる

地域固有の素材色など、地域の基調色を持ったまちは美しいものです。基調色の再生はもちろん、新しい都市空間でも、時間をかけて地域に蓄積していくことが必要です。

ネルトリンゲン（ドイツ）

ミコノス島（ギリシャ）

○色彩の調和のとれた街並み

基調色が限定された１色では、変化に乏しく退屈に感じます。そのため様々な色彩が調和することが重要です。調和する色彩の組み合わせには次のようなものがあります。

■類似色による調和

よく似た色彩を使った街並み

7.5YR（中明度・中彩度）　10YR（中明度・中彩度）　2.5Y（中明度・中彩度）

■色相による調和

同一または類似する色相でそろえトーンに変化をつけた街並み

10YR（中明度・中彩度）　10YR（中明度・低彩度）　10YR（高明度・低彩度）

■トーンによる調和

同一または類似するトーンでそろえ、色相に変化をつけた街並み

R 系（中明度・低彩度）　GY 系（中明度・低彩度）　B 系（中明度・低彩度）

（7）岡山市景観計画で決められた色彩ルール

○色彩基準の目的

建築物等の色彩は街並みの景観形成に多大な影響をもっており、色彩をコントロールすることは美しい街並みを保全・形成していく上で大変重要です。そのため、岡山市の実態に合った色彩基準を設定し、街並みの中で調和しない、けばけばしい、突出した存在となる建築物等の色彩を適正に制限します。ただし、自然素材等や見付面積の10分の1未満のアクセント色は、この限りでありません。

※色彩基準における壁面の見付面積は、基本的に壁面一面ごとに検討します。

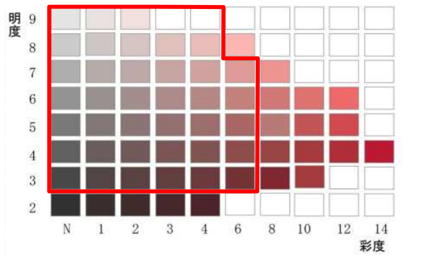
※２色以上ある場合は面積割合が多いものが基調色となります。

※基準の詳細については、岡山市景観計画をご覧ください。

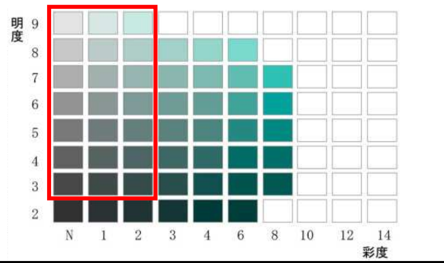
けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和に配慮することとし、下記基準に適合したものとすること。

色相	明度	彩度
R、ＹR、Ｙ系	３以上	６以下
その他		２以下
ただし、R系については明度８以上、かつ、彩度４を超えるものは除く。		

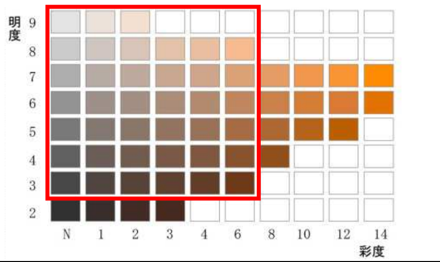
R（赤）系の色相　5R



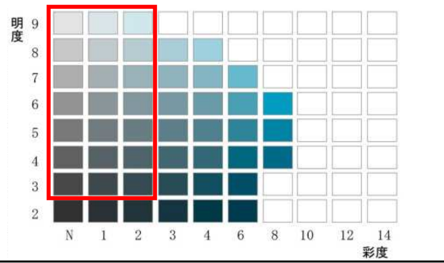
BG（青緑）系の色相　5BG



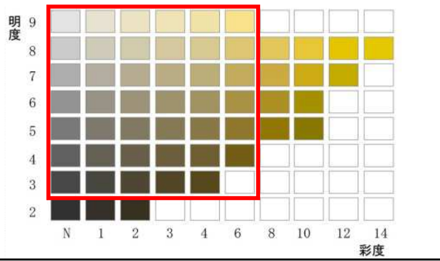
YR（黄赤）系の色相　5YR



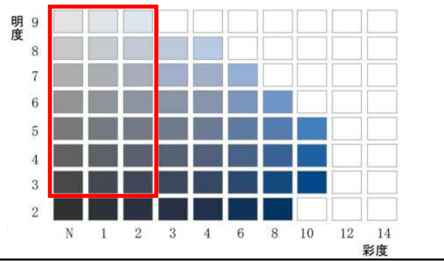
B（青）系の色相　5B



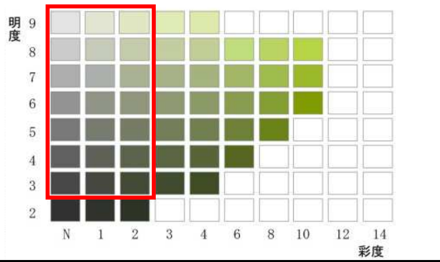
Y（黄）系の色相　5Y



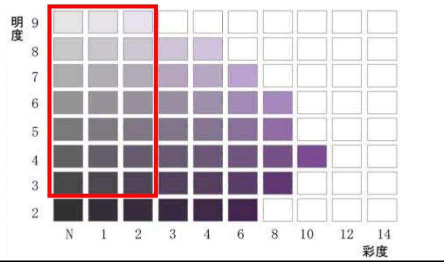
PB（青紫）系の色相　5PB



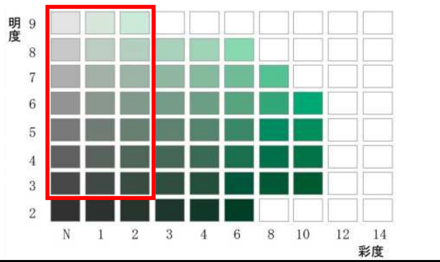
GY（黄緑）系の色相　5GY



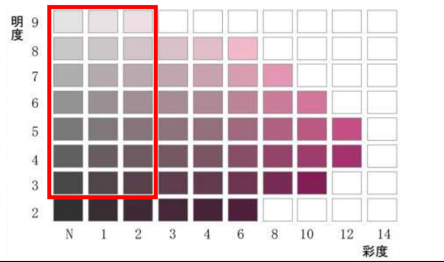
P（紫）系の色相　5P



G（緑）系の色相　5G



RP（赤紫）系の色相　5RP



凡例

外壁基調色として使用可能な色彩の範囲

（８）色彩基準の範囲内にある代表的な色彩

○色彩基準の範囲内にある代表的な色彩　（記号はマンセル値、〔　〕内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。）

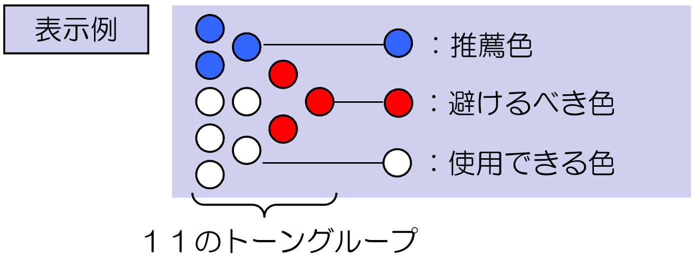
	彩度６以下							彩度２以下							彩度６以下
N系	YR系					Y系		GY系	G系	BG系	B系	PB系	P系	RP系	R系
〔N-90〕 N-9.0	〔15-90B〕 5YR 9.0/1.0	〔17-90D〕 7.5YR 9.0/2.0	〔19-90A〕 10YR 9.0/0.5	〔19-90B〕 10YR 9.0/1.0	〔19-90C〕 10YR 9.0/1.5	〔22-90B〕 2.5Y 9.0/1.0	〔22-90D〕 2.5Y 9.0/2.0	〔32-90B〕 2.5GY 9.0/1.0	〔45-90A〕 5G 9.0/0.5	〔55-90B〕 5BG 9.0/1.0	〔65-90B〕 5B 9.0/1.0	〔75-90B〕 5PB 9.0/1.0	〔85-90B〕 5P 9.0/1.0	〔95-90B〕 5RP 9.0/1.0	〔05-90A〕 5R 9.0/0.5
〔N-85〕 N-8.5	〔15-85B〕 5YR 8.5/1.0	〔17-85D〕 7.5YR 8.5/2.0	〔19-85A〕 10YR 8.5/0.5	〔19-85B〕 10YR 8.5/1.0	〔19-85C〕 10YR 8.5/1.5	〔22-85B〕 2.5Y 8.5/1.0	〔29-85D〕 10Y 8.5/2.0	〔35-85A〕 5GY 8.5/0.5	〔45-85B〕 5G 8.5/1.0						
〔N-80〕 N-8.0	〔15-80B〕 5YR 8.0/1.0	〔17-80D〕 7.5YR 8.0/2.0	〔19-80A〕 10YR 8.0/0.5	〔19-80B〕 10YR 8.0/1.0	〔19-80C〕 10YR 8.0/1.5	〔22-80B〕 2.5Y 8.0/1.0	〔22-80D〕 2.5Y 8.0/2.0	〔35-80D〕 5GY 8.0/2.0	〔49-80B〕 10G 8.0/1.0	〔55-80B〕 5BG 8.0/1.0	〔65-80B〕 5B 8.0/1.0	〔75-80B〕 5PB 8.0/1.0	〔85-80B〕 5P 8.0/1.0	〔95-80B〕 5RP 8.0/1.0	〔05-80B〕 5R 8.0/1.0
〔N-75〕 N-7.5	〔15-75B〕 5YR 7.5/1.0	〔17-75D〕 7.5YR 7.5/2.0	〔19-75B〕 10YR 7.5/1.0	〔19-75C〕 10YR 7.5/1.5	〔19-75D〕 10YR 7.5/2.0	〔22-75B〕 2.5Y 7.5/1.0	〔22-75D〕 2.5Y 7.5/2.0								
〔N-70〕 N-7.0	〔15-70D〕 5YR 7.0/2.0	〔17-70D〕 7.5YR 7.0/2.0	〔19-70B〕 10YR 7.0/1.0	〔19-70C〕 10YR 7.0/1.5	〔19-70D〕 10YR 7.0/2.0	〔22-70B〕 2.5Y 7.0/1.0	〔22-70D〕 2.5Y 7.0/2.0	〔35-70A〕 5GY 7.0/0.5	〔45-70B〕 5G 7.0/1.0	〔55-70B〕 5BG 7.0/1.0	〔65-70D〕 5B 7.0/2.0	〔75-70B〕 5PB 7.0/1.0	〔85-70D〕 5P 7.0/2.0	〔95-70B〕 5RP 7.0/1.0	〔05-70B〕 5R 7.0/1.0
〔N-60〕 N-6.0	〔15-60B〕 5YR 6.0/2.0	〔17-60D〕 7.5YR6.0/2.0	〔19-60B〕 10YR 6.0/1.0	〔19-60F〕 10YR 6.0/3.0	〔19-60H〕 10YR 6.0/4.0	〔22-60B〕 2.5Y 6.0/1.0	〔25-60D〕 5Y 6.0/2.0	〔37-60D〕 7.5GY 6.0/2.0							〔05-60B〕 5R 6.0/1.0
〔N-50〕 N-5.0	〔15-50B〕 5YR 5.0/1.0	〔17-50D〕 7.5YR 5.0/2.0	〔19-50D〕 10YR 5.0/2.0	〔19-50F〕 10YR 5.0/3.0	〔19-50H〕 10YR 5.0/4.0	〔22-50B〕 2.5Y 5.0/1.0	〔25-50D〕 5Y 5.0/2.0	〔37-50D〕 7.5GY 5.0/2.0	〔45-50B〕 5G 5.0/1.0	〔55-50D〕 5BG 5.0/2.0	〔62-50D〕 2.5B 5.0/2.0	〔72-50D〕 2.5PB 5.0/2.0	〔85-50D〕 5P 5.0/2.0	〔95-50B〕 5RP 5.0/1.0	〔05-50B〕 5R 5.0/1.0
〔N-40〕 N-4.0	〔15-40D〕 5YR 4.0/2.0	〔17-40D〕 7.5YR 4.0/2.0	〔19-40D〕 10YR 4.0/2.0	〔19-40F〕 10YR 4.0/3.0	〔19-40H〕 10YR 4.0/4.0	〔22-40B〕 2.5Y 4.0/1.0	〔25-40D〕 5Y 4.0/2.0	〔35-40B〕 5GY 4.0/1.0	〔45-40B〕 5G 4.0/1.0	〔55-40B〕 5BG 4.0/1.0	〔65-40B〕 5B 4.0/1.0	〔75-40B〕 5PB 4.0/1.0	〔85-40B〕 5P 4.0/1.0	〔95-40B〕 5RP 4.0/1.0	〔05-40B〕 5R 4.0/1.0

明度３以上

（9）岡山カラーガイド

岡山らしい色彩景観づくりの実現に向けて、色彩表示体系として「カラートーン」を下記のように定めています。このカラートーンでは、色のトーン（強さ）によって、明穏色、暗清色、鮮明色などの１１のグループに分類しています

この１１のグループを建物の外壁の基調色としての推薦色（ ● ）、避けるべき色（ ● ）のグループに分類し、カラーガイドとして区域ごとに示していますので、建物の基調色を選ぶ際に参考にしてください。

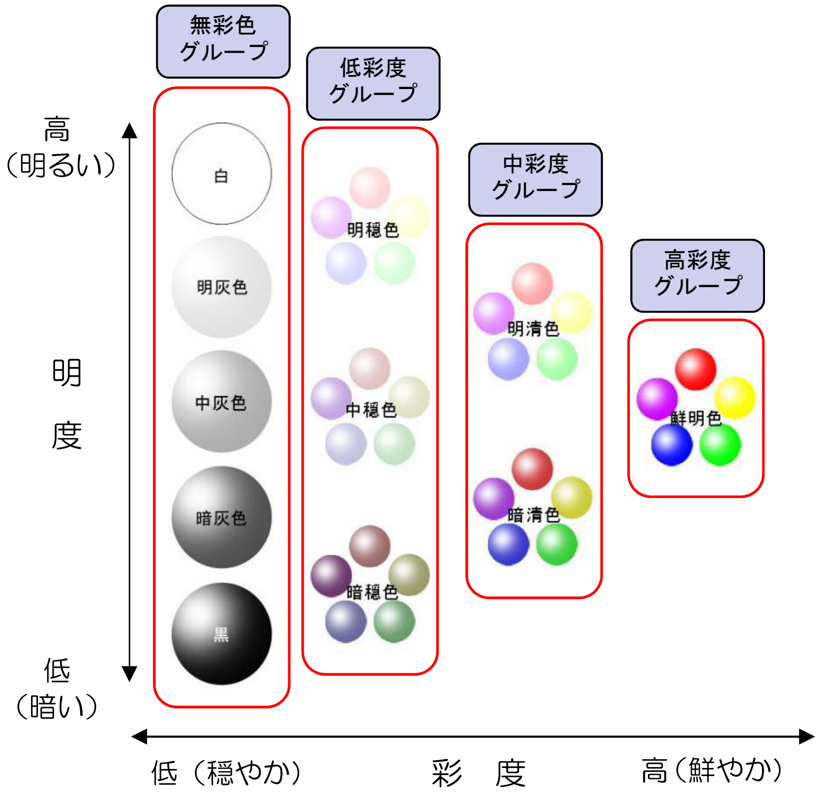


1）カラートーンによる色の分類

カラートーンは、１１のトーングループに分類されています。

それぞれのトーンには、明るく穏やかな「明穏色」といった色彩の印象を反映した名称をつけ、建物の外壁の基調色としての使用を避けた方がよい色や推薦色を示しています。

○カラートーンによる色彩の１１のグループ



※２つのトーンの境界にある色彩は、
両方のトーンに属します。

■無彩色グループ

	明度
白色	N10～N9
明灰色	N9～N8
中灰色	N8～N6
暗灰色	N6～N3
黒色	N3～N0

■低彩度色グループ

	色相	明度	彩度
明穏色	R･YR･Y 系	10～8	0～3
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		0～1
中穏色	R･YR･Y 系	8～5	0～3
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		0～1
暗穏色	R･YR･Y 系	5～0	0～3
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		0～1

■中彩度色グループ

	色相	明度	彩度
明清色	Y･YR 系	10～6	3～6
	R 系		3～4
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		1～2
暗清色	Y･YR 系	6～0	3～6
	R 系		3～4
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		1～2

■高彩色グループ

	色相	明度	彩度
鮮明色	Y･YR 系	全域	6以上
	R 系		4以上
	GY･G･BG･B･PB･RP 系		2以上

2）大規模建築物等の色彩

街並み景観に大きな影響を与える大規模な建築物などの外装の基調色を選ぶ際には、次の点に配慮しましょう。

○色相

- 建築物等の色としては、R（赤）系、YR（黄赤）系、Y（黄）系の彩度の低い明穏色、中穏色、暗穏色が一般的です。これらの色相を用いると周辺との違和感の少ない外観を構成することができます。
- 特に青系などを建物等の基調色とする時は、違和感を与えやすいので、慎重に選定しましょう。

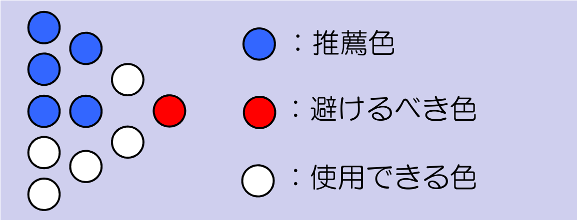
○明度

- 明るめの色彩の建築物等が集積している都市部では明るめの色を、樹林や山が背景となる場所では明るさを抑えましょう。

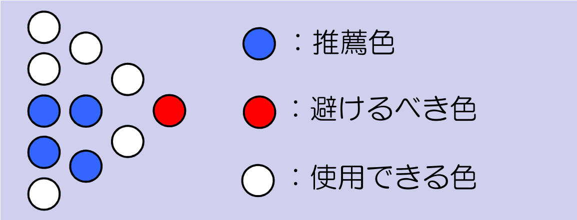
○彩度

- 自然地周辺では、木々の緑より鮮やかな彩度は避けましょう。

○都市部での推薦トーン



○山間部での推薦トーン



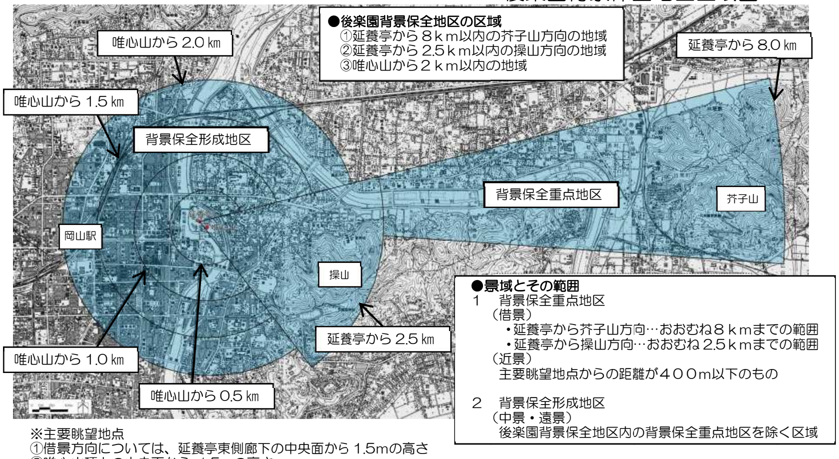
3）景観形成重点地区の色彩

○後楽園背景保全地区（後楽園内からの眺望景観に配慮した色彩）

■色彩景観の特徴

後楽園において、延養亭から操山や芥子山（備前富士）方面への眺望は、四季折々の美しい庭園と操山の斜面緑地が一体となった、岡山を代表する景観といえます。また、園内の唯一の築山である唯心山からは、広大なパノラマが楽しめます。また眼下には沢の池と延養亭と樹木が一体となった、美しいランドスケープが広がっています。

後楽園背景保全地区区域図



※主要眺望地点
①借景方向については、延養亭東側廊下の中央面から 1.5mの高さ
②唯心山頂上の中央面から 1.5mの高さ
③園内の主要散策路面から 1.5mの高さ

■色彩景観形成の考え方

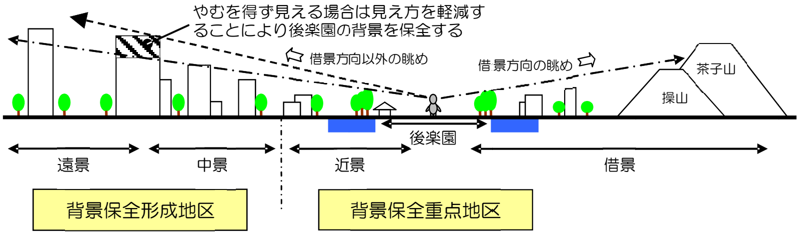
芥子山・操山方面の借景と近景については、後楽園完成当時から変わらぬ借景の維持と、豊かな自然環境との調和のため、主要眺望点から望見されない規模とします。（背景保全重点地区）

借景・近景以外で、やむを得ず、望見されることとなる場合は、周辺の自然や空に溶け込む色彩とし、背景に及ぼす影響をできるだけ軽減し、後楽園からの良好な眺望景観を保全・形成します。低彩度はもちろんのこと、明度も抑えましょう。

一方では、都心部に立地することから多少明るめの色が好ましいと言えます。

（背景保全形成地区）

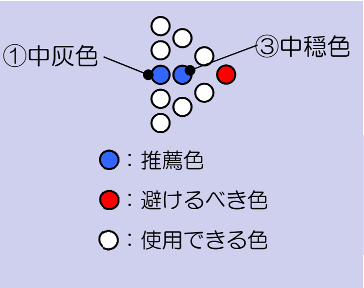
【眺望景観の保全イメージ図】



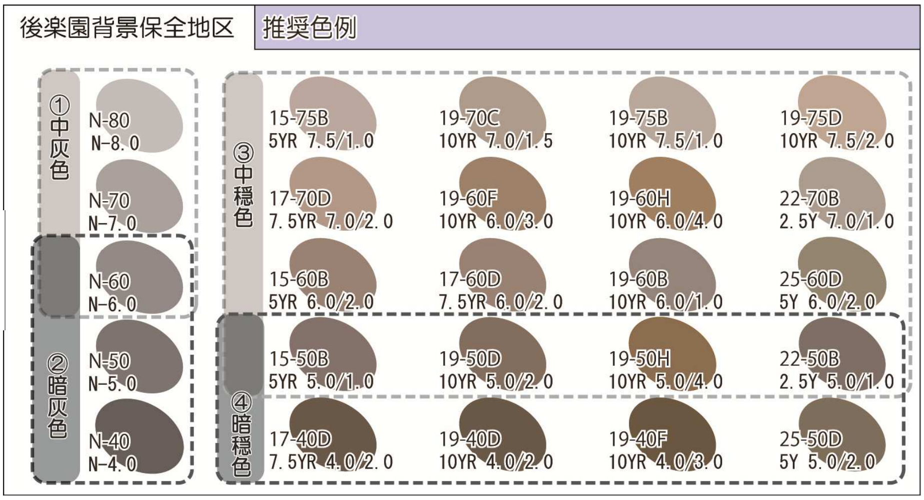
後楽園と岡山城（烏城）

延養亭前から借景方向の眺望

色彩例



②、④は推奨色ではない



記号上段は日本塗料工業会標準色見本帳番号、下段はマンセル値を表しています。

○都心軸沿道地区（都市の風格と賑わいを創出する色彩）

■色彩景観の特徴

都心は、商業業務機能が集積し多くの人々が集まる岡山の中心であり、風格と賑わいを備えた魅力ある都市景観が形成されています。市役所筋の色彩は、無彩色（明度７．５～９）と暖色系色相が多く、全体の９割以上を占め、街並みの基調色となっています。また、彩度は、２以下の色彩を基調とするものが８割に達しています。明度については、８以上９未満が３４％と最も多く、明度 ５ 以上が全体の９割程度占めています。

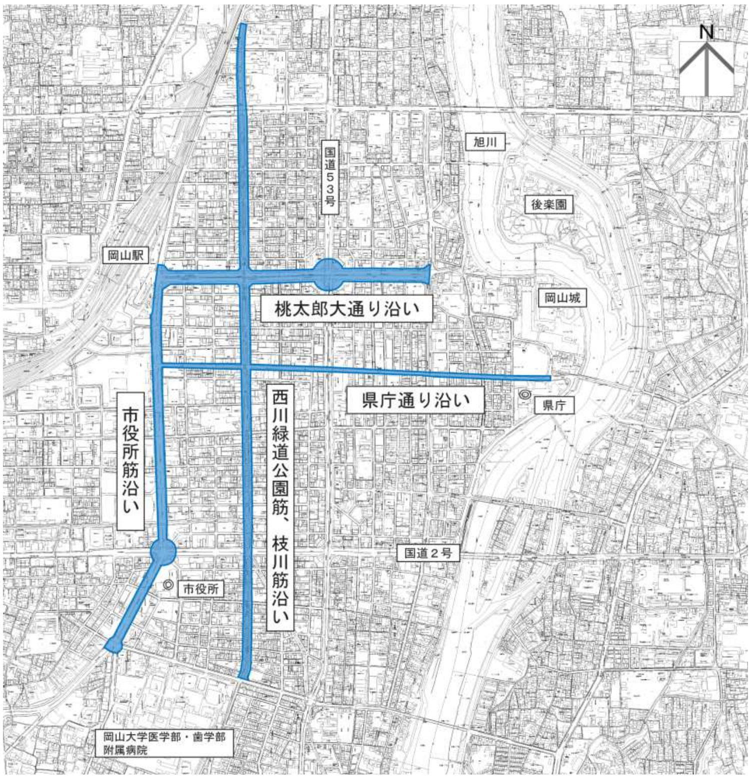
■色彩景観形成の考え方

色彩は、暖色系を主体としつつ、明度の低い暗い色彩や、彩度の高い鮮やかな色彩を避け、風格のある街路景観を継承します。

外壁の基調色は、低彩度に限定し、外観に大きな影響を与える強調色についても落ち着きが感じられる中彩度までの色彩とします。

また、商業・業務系の建物には適度な華やかさも必要です。低層部の店舗の色はまちの賑わいを創ります。アクセントカラーを上手に採り入れながら来訪者をあたたかく迎える沿道景観としましょう。

西川・枝川緑道公園沿線の外壁の基調色としては、公園の水と緑に溶け込み、周囲の街並みに調和する低彩度の色彩とし、暖色系の色相を基本とします。また、自然の緑との対比が極端に強い明るい色調は避けましょう。

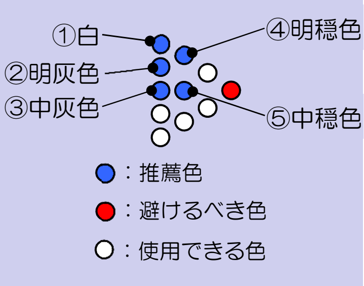


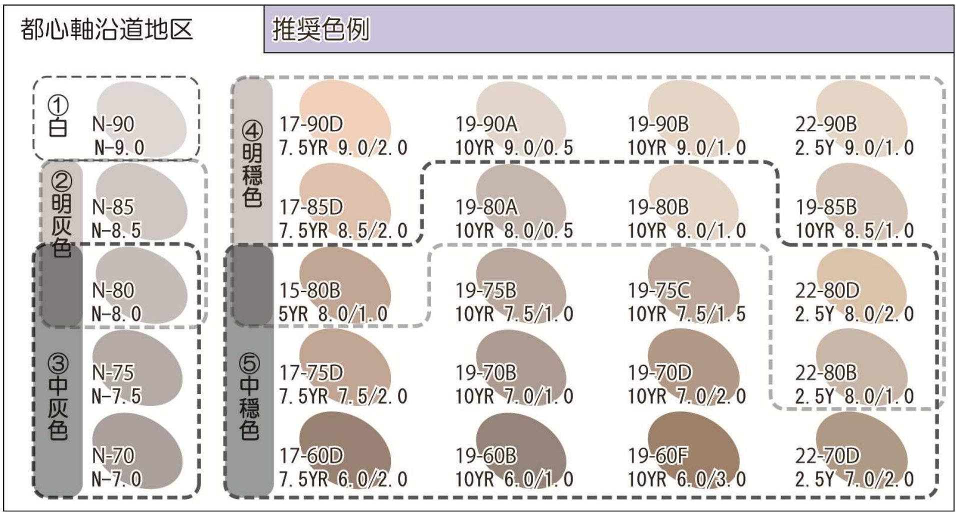
都心軸沿道地区

市役所筋沿道

緑道公園を活かした建物

色彩例





記号上段は日本塗料工業会標準色見本帳番号、下段はマンセル値を表しています。

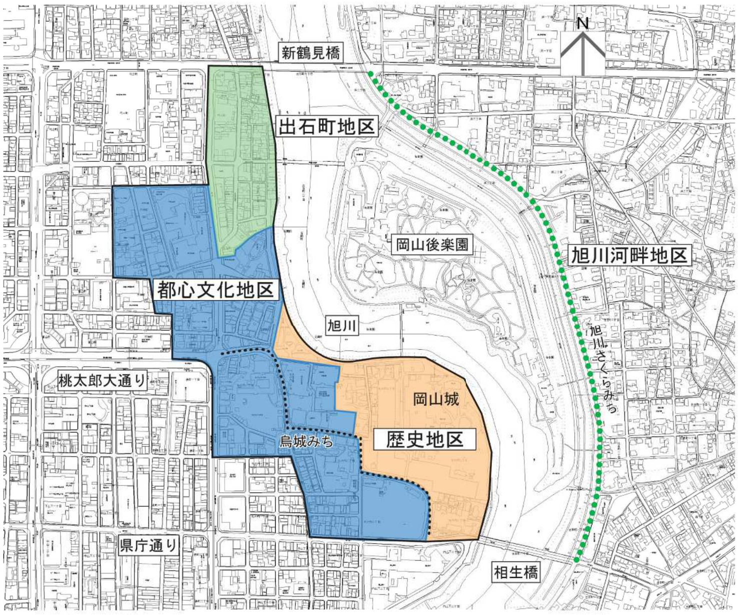
○岡山カルチャーゾーン
（岡山城・後楽園周辺の歴史文化的街並みと調和した色彩）

■色彩景観の現況

後楽園、岡山城周辺は、岡山城の遺構が数多く残り、城下町の時代から、岡山の中心地として繁栄してきた歴史の面影を垣間見ることができます。また、ゆったりと流れる旭川河畔の水・緑の自然景観など、落ち着いた佇まいの街並みが形成されています。現在においては、美術館や博物館、図書館といった文化施設が多く集積しています。

■色彩景観形成の考え方

外壁は、白、黒、茶色系統を基調とし、周囲に違和感なく調和する低彩度で落ち着いた色彩とし、仕上げは、自然の風合いを大切にし、素材感を活かすものとします。屋根の色彩も、周囲の自然や街並みから突出しないよう、明度や彩度を抑えた色彩を用いましょう。



岡山カルチャーゾーン

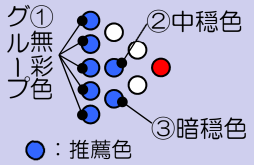
都心文化地区

岡山城（烏城）

旭川さくらみち

出石町地区

色彩例



●：推薦色
●：避けるべき色
○：使用できる色

岡山カルチャーゾーン　推奨色例

グループ				
①無彩色グループ	N-70 N-7.0	N-90 N-9.0		
①無彩色グループ	N-60 N-6.0	N-85 N-8.5		
①無彩色グループ	N-50 N-5.0	N-80 N-8.0		
①無彩色グループ	N-40 N-4.0	N-75 N-7.5		
②中穏色	17-70D 7.5YR 7.0/2.0	19-75B 10YR 7.5/1.0	19-75C 10YR 7.5/1.5	19-75D 10YR 7.5/2.0
②中穏色	15-60D 5YR 6.0/2.0	19-70C 10YR 7.0/1.5	19-70D 10YR 7.0/2.0	25-60D 5Y 6.0/2.0
②中穏色 / ③暗穏色	17-50D 7.5YR 5.0/2.0	19-60B 10YR 6.0/1.0	19-60H 10YR 6.0/4.0	19-40F 10YR 4.0/3.0
③暗穏色	15-40D 5YR 4.0/2.0	19-50D 10YR 5.0/2.0	19-50H 10YR 5.0/4.0	22-40B 2.5Y 4.0/1.0

記号上段は日本塗料工業会標準色見本帳番号、下段はマンセル値を表しています。

（10）公共施設の色彩

公共施設の色彩計画において、注意すべき事項や配慮すべき事項を以下に示します。

○自然界の色彩に学ぶ

自然界の色彩は抑制がきいていて全体的に調和的です。

自然界では動かない大きな面積を占める土、砂及び岩は低彩度の色、樹木の緑や刻々と変化する空は中彩度色、そして花や蝶などは鮮やかな高彩度色を持ち、絶妙なバランスがそれぞれの見え方を支え合っています。樹木の葉は鮮やかに紅葉することはありますが、それは一瞬の時間です。また、小さくて動きのあるものへ鮮やかな色を与えています。花や蝶の美しさを際立たせているものは、彩度が低い緑や大地などの背景です。

私たちが築く都市も、動かない背景となる建築物の壁面には低彩度色を、図となる小面積の動的なものに高彩度色を使うと効果的です。

自然界の配色に学び、多くの人たちに支持される常識的な色彩を心がけてください。その参考となる手掛かりは、常に自然界の中にあります。

自然の配色のすばらしさ

○建築物の外壁色について

色の三属性の中で、彩度が最も景観に与える影響が大きいと言われています。

建築物の外壁色は都市景観の基調をなす部分であり、自然で言えば大地の色と呼応しています。

建築物の外装には目新しさや周囲の建築物との差別化はさほど必要ありません。設計者は建築物の外観に常に新しい表現を求めようとします。そして、表現したいイメージに拘るとどうしても彩度が高い色彩を選ぶ傾向があります。カラーイメージ戦略は他社の製品と差別化する手法であり、街並みの全体の方向性を決めずに、カラーイメージを個々の建築物に表現することは大きな問題があります。

建築物の色彩を決めるときには、いくつかの色彩の配色関係、建築形態と色彩の関係、及び周辺の建物や自然環境と色彩の関係などを総合的に判断して決めてください。

壁面全体が看板のような建物

誘目性を狙った壁面絵画

建築物の外壁色の選択に迷ったときには、１０YRの彩度３以下を使いましょう。この範囲にある色彩は豊富で、これを基調色として、アクセントカラーを加えると色の組み合わせは無限に広がります。

○道路と付属施設の色彩について

道路は低彩度の単色を基本としましょう。

景観の中で、道路は主役ではありません。常に背景であり、基本的にはグラフィックパターンを施す、あるいは絵タイルを埋め込むことは不要です。本来背景でよい歩道の路面が目立つようになると、騒がしく落ち着きのない景観となってしまいます。

目立つべき主役は、そこを歩く人たちや、道路に面した店舗のショーウィンドウであり、四季の移り変わりを告げる街路樹や草花です。

舗装の色彩の選択に迷ったときには、無彩色かその地域の土の色にすれば間違いありません。

模様を施した騒がしい舗装

ガードレールやボラードはある程度注目される必要がありますが、他の多くの付属物は目立たない方が良い、そして同色で揃っているかあるいはトーンを使い分けた色調に収まっていることが望ましいのです。

建築物の外壁は１０ＹＲが基調色となっていることから、道路付属物についても建築物と調和しまた目立たないように、１０ＹＲ系の色をスタンダードカラーとしましょう。

国土交通省では、右表のとおり「環境に配慮した防護策の整備ガイドライン」を策定しているので、参考としましょう。

色彩	色名	マンセル記号
	ダークブラウン	10YR2.0/1.0 程度
	グレーベージュ	10YR6.0/1.0 程度
	ダークグレー	10YR3.0/0.2 程度

防護柵の国土交通省推奨色

橋梁のデザインは、単体として美を追求することではありません。橋梁が周辺の大地（地形、植生、水系など）や市街地と一体となって、風景や景観の中の一部として美しさを追求すべきです。

したがって、橋梁の色彩は、常に彩度が低く目立たない方が良いというわけではありません。風景の中でシンボルとして目立たせようとするときは、より周辺の色彩との関係性に配慮して、意匠や色彩を決める必要があります。

真っ赤に塗装され、不調和な橋梁

（１１）参考文献

本指針の作成にあたっては、以下の文献を参考にさせていただきました。

〇景観法を活用するための環境色彩計画
（吉田愼悟著／丸善株式会社）
〇公共の色彩を考える
（公共の色彩を考える会／青娥書房）

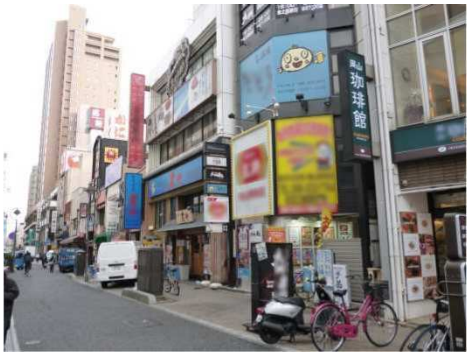
COLUMN

●騒色公害

騒色は、騒音や悪臭などと同様に人々に不快感を与える公害と言えます。

街中や幹線道路沿いは、巨大な原色の看板で埋まっています。また商業ビルの壁面や屋上にも原色の看板が溢れています。そこでは、競って原色を使うために騒々しく、どの看板も同じように見えてしまい、広告の訴求効果は失われています。その結果、さらに強い訴求力を求めて巨大化し、誘目性を競い合うことになります。

私たちは、このような騒色だらけの街に暮らしていると、当初奇抜に思えたものでも、次第に感覚が慣れてしまい、違和感を覚えなくなります。なんと恐ろしいことでしょう。

そこで、岡山市では、屋外広告物条例を定め、広告物の設置（規模、色彩、設置場所など）を規制しています。けれども、許可を得ないで違法な広告物も多く設置されており、市では改善や撤去などの指導に努めています。

公共的な看板についても、交通安全などの注意書きや標語が道路沿いに設置されますが、改めて見直すとその数の多さに驚きます。しかも、商業看板と同じように大きくしかも派手になる傾向があります。また、その製作にお金をかけないため、立て看板やのぼり旗などデザインや素材に稚拙なものが多いと見受けます。公共空間に置かれる看板は、もっと上品であってほしいものです。